

CITATION: Kornman LH, Nisbet DL, Liebelt J. *Cochrane Database of Systematic Reviews*
Cochrane Pregnancy and Childbirth Group, Issue 1. Art. No.: CD001806. DOI:
10.1002/14651858.CD001806
CRG名: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 4 November 2008
Clib issue No.; N/U: 2009 Issue 1; Update

アブストラクト

背景: 脆弱Xはダウン症候群後の精神遅滞の最もよく見られる原因である。これは精神遅滞で最もよく見られる遺伝性の原因であり、X染色体長腕の遺伝子の動的突然変異に由来するものである。出産前スクリーニングには様々な方法が用いられる。

目的: 一見したところローリスクの女性を対象とした脆弱Xキャリア状態に関する受胎前および妊娠中のスクリーニングの実施は、リスクが増していると思われる女性に、検査を提案するという既存の診療を上回る利益を得られるかどうかを判定すること。

検索戦略: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Register(2008年10月)を検索した。

選択基準: 家族歴に関係なく検査を受けている女性(介入群)と脆弱Xおよび/または他の未診断の精神的疾患/障害いずれかの家族歴がある場合にのみ検査を受けた女性(コントロール群)を比較するランダム化臨床試験。

データ収集と分析: 3名のレビューアが、個別に試験の質を評価した。

主な結果: 選択した試験はなかった。

レビューアの結論: 脆弱Xキャリア状態に関する受胎前もしくは妊娠中のルーチンのスクリーニングが、リスクが増大していると思われる女性の検査を上回ってさらに利益を追加するかどうかを明らかにする情報は、ランダム化試験からは入手不可能である。

平易な要約(Plain language summary)

X染色体脆弱部位の受胎前及び妊娠中のスクリーニング

リスクを有する女性以外で、誰が妊娠前または妊娠中に脆弱X症候群のスクリーニングを受けるべきかを示す強固なエビデンスはありません。

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日: 2015年 1月 27日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。